

令和5年度三浦半島宮陵会の集い

ヴェルクよこすかに於いて盛大に開催

令和5年度神奈川大学三浦半島宮陵会の集い「総会・講演会・懇親会」が7月1日、京急横須賀中央駅から徒歩5分の「ヴェルクよこすか（横須賀市立勤労福祉会館）」に57人が参加して開催された。

進行役の嶋田順子副会長（昭和47年短大卒）の司会で始まった総会には会員44人が参加し、会則により矢澤基一副会長（昭和44年経済卒）が議長を務め、令和4年度事業報告、同収支決算報告・監査報告、会則の一部追加（別掲）、令和5・6年度役員選任、令和5年度事業計画、同収支予算の6本の議案が内藤正久事務局長（昭和51年機械工卒）、久根口昭二会計（昭和59年法律卒）から提案され、砂川正夫会計監査（昭和44年経済卒）が監査意見を述べ、いずれも承認可決された。

講演会には52人が参加し、大川千寿・神奈川大学法学部教授が「2023年地方選挙を終えて今後の日本政治は」と題し90分にわたり講演された。（要旨は3頁）

懇親会は、コロナ対策を十分に行ったうえ、ケイタリング方式で行った。これには8人の女性を含む54人が参加し、岩本善則会計監査（平成3年経済卒）の司会で、田原清彦新会長（昭和49年貿易卒）の主催者挨拶。久米信行宮陵会専務理事、手戸俊章神奈川大学事務局次長の両氏から来賓挨拶を頂き、初参加者、新役員、県内地域組織の方々の紹介の後、最年長の安西宏さん（昭和36年経済卒86歳）が乾杯の音頭をとり、歓談が始まった。



参加者全員で記念撮影（ヴェルクよこすか）

ご挨拶

会長 田原 清彦

この度、三浦半島宮陵会会長を拝命いたしました1974（S49）年貿易学科卒の田原清彦です。



三浦半島宮陵会は神奈川大学の卒業生組織である宮陵会地域組織の一つであり諸先輩方の様々なご努力により2006年発足以来17年にわたって活発な活動を行ってまいりました。古川初代会長、鈴木前会長が残された立派な三浦半島地域卒業生組織を引き継ぎますことは大変光栄なことであり身の引き締まる思いです。

小学校、中学校、高校の同窓会は育った地域という共通項でつながっていますが大学の同窓会とは社会に巣立つ前に青春を過ごした日々への想い、様々な出身地域からの仲間とのつながりや絆、そして卒業した大学への誇りをもとに形成されるべきものであろうと思います。

いまから170年前の1853年に三浦半島・浦賀に黒船が来航した歴史から世界への窓口とされてきた印象深い地域で、校歌にもうたわれる“世界は呼ぶ”に大変ふさわしい地域でもあります。

神奈川大学は地域社会との共生や地域発展に貢献することを目指しており2028年には創立100周年を迎えます。卒業生総数は約20万人を超えており横浜キャンパス、みなとみらいキャンパスに地理的に近い三浦半島にはたくさんの卒業生が在住しているものと思われ、会員数の増加や新たな展開にむけ会員の皆様とともに邁進してまいり所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

顧問 鈴木 和夫

2015年より8年間会長職を務め

させて頂きました。会長職をお受けする際には、諸先輩がいる中で「私で良いのか、出来るのか」と自問自答しましたが、皆様からの強い後押しと励ましを受け、自身も強



い気持ちで会長職をお引き受けしました。コンビでやって頂いた原柳作前事務局長（現在宮陵会副会長）はじめ役員の皆様の支えやご協力ありがとうございました。

お陰様で、私のポリシーである「明るく楽しく最善を尽くす」を心掛け、古川勝彦前会長（現在顧問）や諸先輩の築かれました強固な基盤を継承することが出来ました。今後は顧問として、田原清彦会長を支え、会の更なる発展の為に努力してまいります。今後とも宜しくお願い致します。

合計	314,000	371,743	-57,743	
収支差額	-64,000	304,565	-368,565	
前年繰越金	1,833,503	1,528,938	304,565	
次年繰越金	1,769,503	1,833,503	-64,000	

2022年度収支決算報告(2022.4.1~2023.3.31)

科目	22 予算額	22 決算額	増 減	備 考
収入				
会費	115,000	355,000	240,000	
助成金	30,000	204,296	174,296	宮陵会
雑収入	50,000	117,012	67,012	祝金他
合計	195,000	676,308	481,308	
支出				
会議費	20,000	66,400	46,400	会場費
通信費	70,000	94,483	24,483	
印刷消耗品	30,000	20,472	-9,528	
雑費	100,000	190,388	90,388	謝礼他
合計	220,000	371,743	151,743	
収支差額	-25,000	304,565	329,565	
前年繰越金	1,528,938	1,528,938	0	
次年繰越金	1,503,938	1,833,503	329,565	

2023年度収支予算(2023.4.1~2024.3.31)

科目	23 予算額	22 決算額	増 減	備 考
収入				
会費	120,000	355,000	-235,000	
助成金	80,000	204,296	-124,296	宮陵会
雑収入	50,000	117,012	-67,012	祝金他
合計	250,000	676,308	-426,308	
支出				
会議費	70,000	66,400	3,600	会場費
通信費	95,000	94,483	517	
印刷消耗品	25,000	20,472	4,528	
雑費	124,000	190,388	-66,388	謝礼他

2023年度事業計画

- 親睦を深めながら母校の発展に寄与し、会員増強への基盤づくりを図る
 - ・会員に対して、ホームカミングデー、神奈川県ブロック会イベント、大学祭(横浜・みなとみらいキャンパス)、箱根駅伝沿道応援、野球部などの応援、神奈川県主催の文化講演会や吹奏楽部定期講演会などへの参加を促す。
 - ・会員増強を図るため、当会エリアの65歳を迎えた卒業生に「新年会」や「集い(総会)」の案内を郵送し、出席を促す。
 - ・女性の卒業生に対しては、女性同士の交流が図れるようLINEグループの拡充を行う。
- 新年会の開催(2024年1月下旬予定)
- 広報活動の継続と同好会への支援
 - ・会報「三浦半島宮陵会だより」を9月と3月の年2回発行
 - ・「三浦半島宮陵会ホームページ」で情報発信。
 - ・「LINE」を使って会員同士の情報共有。
 - ・会員相互の親睦を図るために、ゴルフ同好会、歩こう会、テニス同好会、釣り同好会の行事を開催。
- 現役学生や若い卒業生との交流を積極的に図り連携を深める
- 役員会(4・9・12・3月の土曜日)を開催。必要に応じ臨時役員会を開催する。

会則の一部追加が決定

総会におきまして、下記の通り、神奈川県三浦半島宮陵会会則第5条2項に「家族会員」の規定、第12条2項に「家族会員の会費」の規定を追加することが決定しました。令和5年7月1日から施行します。

神奈川県三浦半島宮陵会会則

第5条(会員)

- 前項を卒業した者のうち、前項(1)(2)に該当する配偶者および

一親等の親族が同居している場合には、役員会で事前に承認を受けたうえで、家族会員として登録する。

第12条（会費）

2. 家族会員の会費は、前項と同様とする。但し、家族会員の全員が75歳以上となった場合にのみ、10,000円納付で終身会員とする。

附則：令和5（2023）年7月1日家族会員制度設定

2023・2024年度役員選任される

総会におきまして、下記の通り、神奈川県三浦半島宮陵会役員が選任されました。規定により任期は2年間となります。

- ▼会長/田原清彦（S49年貿易卒）▼副会長/原柳作（S46年英語英文卒）・嶋田晃（S47年経済卒）・嶋田順子（S47年短商卒）・塩塚定雄（S48年貿易卒）・西脇幸二（S53年貿易卒）▼副会長兼事務局長/内藤正久（S51年機械工卒）▼副会長兼会計/久根口昭二（S59年法律卒）▼幹事/砂川正夫（S44年経済卒）・中川六郎（S44年経済卒）・矢澤基一（S44年経済卒）・久保田直彦（S44年法律卒）・武井利徳（S45年経済卒）・永野茂（S50年法律卒）・川口好孝（S54年経済卒）・佐藤裕久（S54年経済卒）・石渡大輔（S56年法律卒）・鈴木明子（H6中国語卒）・金澤優太（H25年法律卒）▼会計監査/堀越昌樹（S62年法律卒）・岩本善則（H3年経済卒）
- ▼顧問/古川勝彦（S40年経済卒）・鈴木和夫（S46年法律卒）▼参与/大倉国光（S38年法律卒）・小池邦夫（S38年機械工卒）・村田龍也（S39年経済卒）・若林秀明（S39年経済卒）・鈴木稔（S44年経済卒）



↑ 総会の様子

講演会開催

「2023年地方選挙を終えて今後の日本政治は」

講師 神奈川県法学部教授 大川 千寿 氏

1. 2023年統一地方選
2. ジェンダーギャップ指数 2023（世界経済フォーラム）
3. 統一地方選後の政局とその背景
4. 日本政治の今後



【講演要旨 / 古川 勝彦（S40年経済卒 顧問）】

『2023年地方選挙を終えて今後の日本政治は』と題し、各分野の最新情報を取り上げ、パワーポイントを駆使し、詳しく且つ現状を分かり易く説明された。

講演の骨子は、（1）2023年統一地方選 （2）ジェンダーギャップ指数2023（世界経済フォーラム）（3）統一地方選後の政局とその背景 （4）日本政治の今後でありました。講演会レジメの細目を参考に、講演要旨をまとめました。



（1）2023年統一地方選

4月9日と23日に実施された2023年統一地方選は、234首長選と747議会議員選が実施。統一率は27.43%。

神奈川では、知事選、県議選、相模原市長選、3政令市議選など主要な選挙が実施された。

朝日新聞世論調査による岸田内閣の支持率の推移、2023年3月政党支持率、神奈川県議選党派別立候補者、政党別41道府県議選の当選者数、政党別17政令指定市議選の当選者数、政党別294一般市議・東京21区議選の当選者数、神奈川県議選党派別議席、横浜市議選党派別

議席、川崎市議選党派別議席、相模原市議選党派別議席、横須賀市議選などの資料を基に分析。

2023 統一地方選は概ね、現状の日本の政党政治の状況を反映する結果となったものと思われる。神奈川でも、県議選と政令市議選で維新が躍進し、共産が後退した。首長選も含めてほぼ現状維持、野党系では立憲も議席を維持し、自民に次ぐ勢力を保ったが現職の落選が相次ぐなど、地域の地盤を十分に築けていない。維新が都市部を中心に議席を確保し、拠点構築の一步とした。

(2) ジェンダーギャップ指数 2023

日本の 125 位は過去最低。神奈川県大磯町議選の当選者のうち女性が半数 2003 年から 6 回連続 (朝日新聞デジタル 6/28 より)

政治家と性別・年齢・全国的に話題となった。性別や年齢の偏り、神奈川県も例外ではない。有権者の声を拾い上げる政治家の多様性は重要 ⇨ 現職議員の「壁」、自民をはじめ各政党は努力が必要。こうした問題への有権者の側のムーブメントはどうだったか?

(3) 統一地方選後の政局

与党、統一地方選での堅調な戦い。広島サミットの「成功」。野党の分断状況。通常国会での「重要法案」成立。内閣不信任案提出 → 衆院解散ならず。

2021 年衆院選当選者の感情的距離感 (東大谷口研・朝日共同調査より)。公明党の比例得票数の推移をみると、公明党の組織力の衰えが見える。2023 年統一地方選で、公明党は 1555 名擁立 → 前半戦 2 名 後半戦 10 名が落選 (過去最多)、「全員当選」に近い結果を出すのが通例の公明としては異例の結果。

自公連立にきしみ。公明党の中長期的な組織力低下 ⇨ 自民党にとっての「うまみ」減少。公明の小選挙区候補推薦要求と自民地元組織の反発 → 東京以外の衆院小選挙区では協力継続で合意も・・・朝日新聞世論調査 (2023 年 6 月)、自公連立について、全体では続ける方が良い 32%。解消する方が良い 55%。

2021 年衆院選、立憲当選者の対共産感情温度の分布によると、立憲に「非泉」の動き。小川氏ら、野党候補一本化求める会 (朝日新聞デジタル 6/17 より)

野党の分断、定まらない方向性 (主要野党の立ち位置より)。衆院選議席占有率の変化 (2003 年—2021 年)、

衆院選議席占有率の変化 (小選挙区・比例代表)、比例代表得票率の変化 (自民、民主・立憲、維新) を分析して、維新の勢いと課題に朝日新聞世論調査 (2023 年 6 月) で、仮にいま比例投票先は? 維新支持層の固さ = 期待の強さ? 他の政党のふかいなさの裏返し? 自民票を奪う側面 ⇨ 立憲などにあった野党票を単純に奪えるか? 維新への政治家の流れ ⇨ 多様さを増す政治家の統率は? 政権経験のある政治家の少なさ、改革イメージの独占⇨政権政党としては幅を広げる必要あり。

(4) 日本政治の今後

今後の流れは? 野党の分断状況、維新の勢いが増す前に? ⇨ 自公の修復は可能か? ライバルの準備は? 河野氏はマイナ問題担当。マイナ問題は、国民広範に影響 (不利益) を及ぼしうる問題 (例: 1989 年参院選の消費税、2007 年参院選の年金問題)。負担増の議論: 少子化、防衛費。解散のタイミングを逸した政権の末路 (例: 麻生政権、菅義偉政権)。来年の自民党総裁選。

2003 年以降の神奈川県内小選挙区の結果、次回衆院選からの神奈川県小選挙区新区割り (18 → 20)、政党の理想と今日の現実などを説明し 90 分の講演終了。

参考として、大川千寿共著の「つながる つなげる 日本政治」の紹介あり。有難うございました。

私見ではあるが、「経済の原点」である『経世済民』(世の中を治め、人民の苦しみを救う) の精神を、為政者に、切に求めたいと思います。



懇親会開催

ここでは懇親会の模様を、写真によって紹介します。



↑ 司会の岩本善則氏

↑ 挨拶する田原清彦会長



↑挨拶する久米宮陵会専務理事 ↑挨拶する手戸事務局次長



↑ 懇親会にて ②



↑ 参加された県内地域組織の方々よりご挨拶を頂きました



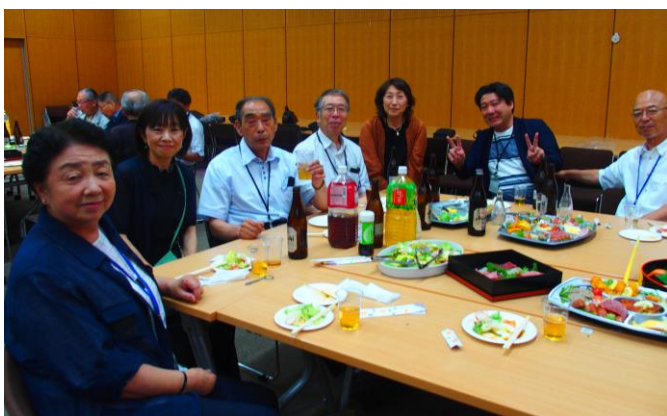
↑ 懇親会にて ③



↑ 新役員の紹介・挨拶 ↑ 乾杯の音頭の安西宏氏



↑ 懇親会にて ④



↑ 懇親会にて ①



↑ 懇親会にて ⑤



↑ 懇親会にて ⑥



↑ 懇親会にて ⑦



↑ 受付をする西脇氏・久根口氏



三浦半島宮陵会同好会通信

活動状況を紹介します

●ゴルフ会世話人:佐藤 武(昭和46年経済卒)

メールアドレス: minami-sugar@nifty.com



連絡先:090-3147-0105

オープンコンペは、卒業生に関わらず、どなたでも参加できます。ゴルフ好きの友人やご家族をお誘い合わせのうえ、気軽にご参加ください。

第46回三浦半島宮陵会オープンゴルフコンペが、令和5年5月12日(金)葉山国際カンツリー倶楽部エメラルドコースにて2組8名の参加で行われました。

コロナ明けで2組だけの少し寂しいコンペでしたが、天候に恵まれて快適なゴルフを堪能しました。

結果は5回目の優勝を飾ることが出来た私、萩原力、イン44、アウト43のベスグロ優勝でした。準優勝は鈴木和夫氏、3位は佐藤美佐男氏、B/B賞は中川六郎氏でした。ニアピン賞はアウト4番で佐藤美佐男氏が受賞しました。

今回は参加人数が少なかったため、新ペリア方式によるコンペで、優勝することができました。同伴競技者2名は葉山国際カンツリーのメンバーさんで、コースを良く知り尽くしておられ、おおいに助けられました。83歳の蘆山氏にも勇気づけられ、1日同伴有難うございました。

次回、第47回は10月11日(水)もしくは10月18日(水)に、葉山国際カンツリー倶楽部を予定しております。今回欠席された方も奮ってご参加ください。

幹事は、中川氏と萩原氏が担当します。また、長いことキャプテンとしてゴルフ愛好会を牽引してきた塚田氏が勇退され、新たに古敷谷均氏が就任しました。今後とも宜しくお願い致します。

(昭和46年貿易卒 萩原力)



●テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)

メールアドレス: kichiemu@mbj.nifty.com



連絡先:090-8811-5079

テニス会の月例会は、毎月3、4回程度大津公園テニスコート(京急新大津駅下車)で行なっています。日程は本会HPをご覧ください。

8月8日9日には、神奈川県箱根保養所に1泊し、町営仙石原テニスコートを利用して合宿を行いました。

合宿には、会員（大倉、古川、砂川、西脇、塩塚）のほか大津公園テニスコートでプレーしている渡辺さん、神奈川区の久米信行さんも参加されました。あいにくの雨で初日だけのテニスとなりましたが、テニスで汗を流した後のビールは、とても格別なものでした。（塩塚定雄）



●歩こう会世話人内藤正久（昭和51年機械卒）
メールアドレス：naitoumasahisa@hotmail.com



連絡先：090-6479-3297

歩こう会は、会員の方々は勿論のこと、ご家族やお友達、ご近所の方々にも参加していただける楽しい会です。

今年の4月には、「三浦一族ゆかりの地を訪ねる」というテーマで歩こう会を開催いたしました（詳細は報告をご覧ください）。これからも、テーマを決めた会や歩くだけでなく、三浦半島の景勝・自然を楽しむ会など、会員の交流に重点を置いた企画をご案内したいと思います。多数のご参加をお待ちしております。

次回の歩こう会は、10月1日「荒崎シー&フラワーコース」（同封の別紙「ご案内」をご覧ください）で景勝地やお花畑・富士山を眺めながらのんびり歩きたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

●つり会世話人：塩塚定雄（昭和48年貿易卒）
メールアドレス：s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp
連絡先：090-5581-1043

現在休止中ですが、神大教職員釣り部などとコラボで企画をしたいと思っています。企画が出来上がりましたらご案内しますので、是非ご参加ください。



歩こう会報告

「三浦一族ゆかりの地を訪ねる」

2023年4月9日（日）快晴の中、「三浦一族ゆかりの地を訪ねる」と銘打って歩こう会を開催した。参加者は15名（S37～H3の卒業生と配偶者1名）で、うち女性が3名だった。

参加者は、9時45分京浜急行北久里浜駅改札口に集合し、幹事が用意した「三浦一族ゆかりの地 散策マップ」と参加記念品の神大名入れタオルを受け取り、京急バスYRP野比駅行きのバスに乗車した。6分で岩戸バス停に着き、徒歩5分で「満願寺」に到着した。駐車場で幹事が挨拶、本日の行程などを説明した。

満願寺は、源頼朝の側近として仕えた御家人の一人 佐原十郎義連が創建した寺で、鎌倉時代初期に慶派（運慶または運慶に近い者の作）が造立した国の重要文化財「木造観音菩薩像」と「地藏菩薩像」が収蔵庫に安置されている。事前に参観の予約を入れていたので、両菩薩像を拝観し、境内を散策した。

次は、歩いて15分の所にある三浦大介義明が割腹した「腹切り松」公園に向かった。公園の一角には、松・石碑・案内板が建てられていた。

続いて、三浦義登の墓がある「薬王寺旧跡」、三浦義村を祀る「近殿（ちかた）神社」を見学し、三浦氏三代の墓があり国指定重要文化財の「瀧見観音」がご本尊の「清雲寺」を訪れた。11時15分から参拝の予約を入れていたので本堂に上がり、お寺の方から説明を受けて、13世紀ごろ中国の南宋から渡ってきた「瀧見観音」と運慶の工房で製作された「毘沙門天」を近くから拝観させてもらった。本堂の裏手には三浦氏の始祖「為通（ためみち）」、二代「為継」、三代「義継」の墓（五輪塔）を見学した。

さらに、徒歩3分の所にある三浦大介義明の菩提寺「満昌寺」に立ち寄り、休憩させてもらった。

12時を過ぎたので横浜横須賀道路の衣笠IC入口のレストラン(ガスト)で昼食を取ることにした。すぐに席に案内され、各自好きなものを注文して食べ、雑談した。13時10分に精算して、衣笠城址に向けて歩き始めた。トンネルを抜けてからは山道だ。

急登と階段をゆっくり登って次の目的地「大善寺」に到着した。この寺は、奈良時代行基によって開山され、三浦一族の本拠地 衣笠城内に建てられたお寺だ。少し休憩したあと、3分で最終目的地の「衣笠城址」に到着した。「衣笠城址」は、平安時代から鎌倉時代にかけて勢力を張った三浦一族の本城があった所で、石垣や堀のない中世の山城だ。物見岩や城跡碑などを見学して少しゆっくり過ごし、14時10分に城址を後にしてゆっくり下り、14時30分に京急バス「衣笠城址」バス停で解散した。

だった。桜は葉桜になっていたが、天気が良く穏やかで、歩くには最高の日和だった。(文責 内藤)

〈本会のホームページについて〉

アドレス <http://miurahanto.blog.shinobi.jp>



神奈川県三浦半島宮陵会のHPのアドレスは上記のようになっていますが『神奈川県三浦半島宮陵会』でも検索できます。今後とも魅力のあるHPにして参りますので、ご覧になってご活用ください。

なお、SNS系の鈴木明子幹事さんの方では、TwitterとLINEを使って、会員や同級生の方々とのやり取り等、情報共有に役立てられるようにして頂いています。Twitterはアカウントができたなら「神大OB会@三浦半島」をフォローしてください。アカウントは「@kyuryo_miura」です。ご不明の点はメールで pangea139@ezweb.ne.jp 迄

～ 編集後記 ～

本号は、先日開催されました、令和5年度三浦半島宮陵会の集い(総会・講演会・懇親会)の様子を掲載させて頂きました。

暑い夏が続いていますが、体育会の学生にとっては、鍛えの夏、合宿をして、同じ釜の飯を食べるなど、普段なかなか、コミュニケーションが取れない先輩とも、打ち解け合うなど、特に団体スポーツには欠かせない時となります。

コロナ禍で自粛が続き、屋内スポーツは、団体練習が出来ない時期が続きました。私が関係する神大バスケットボール部も同様でした。コロナが5類に移行になり、有観客での関東大学リーグ戦がまもなく始まります。

男子は1部リーグに所属し、強豪14チームで優勝とインカレ出場を目指します。今年はワールドカップの直後でもあり非常に盛り上がっていますよ。会場に行き応援し、元気をもらってきませんか。(試合日程はOB会HPで)

今後も本誌を通じまして、会員相互の絆が更に深まることを念願し、編集してまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。感想などもお寄せいただけましたら、幸いに存じます。(塩塚定雄) 2023.8.20 発行



上段：近殿神社にて 下段：清雲寺門前にて

「横須賀やその周辺に住んでいるが、今回訪れたほとんどの神社・お寺・旧跡には初めて来た、という参加者が多く、横須賀を知るうえで有意義だった。」というご意見をいた